

第6分科会 美術教育

視覚を大切にした表現の技能と造形活動
～言語活動を取り入れた絵画指導を通して～

1. 設定理由

描く機会がないということは、描画分野において技術の発達も難しいのではないかと感じている。自分自身の体験を通し、学校で行う授業の意味と、さらには描く機会をつくることの大切さを改めて考え、今回の主題を設定した。

本研究では、特に評価の観点上の「創造的な技能」にあたる、『美術の基礎的な能力を伸ばす』ための工夫に焦点を当てた。形や色彩の表し方を美術の基礎的な能力としてとらえた時、どのように授業を組み立て、何を教えるべきなのかを、今一度考えてみたいと思い設定した。

2. 研究仮説

制作作業に先立ち、観察で気づいたことや感じたことを言葉にし、発見したことを再確認することで、絵画表現の技術の習得に意欲的に取り組めるようになるであろう。

3. 研究内容

- ・制作導入時にモチーフの観察時間をクラス全体で取る。また、制作の途中経過を黒板に貼り、仲間の作品を見て感想を伝えあうことで、その後の自分の制作に取り入れる場面をつくる。
- ・短時間制作を組み合わせ、題材ごとに身につけたい技術を細分化し、教員の発問やなげかけを精選する。

4. 結 論

絵画表現では、適切なアドバイスをすることにより、描き込みの密度を上げることができた。気をつけたい部分を生徒の発表で挙げさせることにより、描かされているのではなく、自分の工夫で仕上げていく気持ちを持たせることができた。

静物画等の観察を主にしたモチーフは短時間で年間計画に組み込むことができるが、風景画等の空間表現を題材にした場合には、時間の確保が今後の課題である。